

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート  
 ～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

責任者	経済学部長	作成部局	経済学部
-----	-------	------	------

A-1	<b>経済学部の理念</b> 経済学部は高等教育における関西学院の中心的学部として、過去 80 年にわたり関西学院の教育理念を具体化する先頭に立ってきた。人は経済の場合すなわちモノとカネの流れのなかで生活しているが、この流れを理論的、歴史的、政策的に分析するのが経済学である。大学全体のキリスト教主義教育に立って、社会の各分野において活動するのに必要な経済および経済学に関する専門的知識を与え、その基本を身につけた人材を育成することが経済学部の存在意義である。キリスト教主義に基づく全人教育の重視と経済学の専門的知識の修得は、わが国の経済運営の重点が成長キャッチアップから創造フロンティアに移行し、また国際的視野が要求されている現在においては、その意義をより大きなものとしている。 (Webサイト)	変更の有無 <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。	
A-2	<b>経済学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)</b> 経済学の専門的知識の習得とそれに基づく現実の経済活動に関する分析能力や判断能力を涵養するとともに、本学のキリスト教主義教育の基本理念に立って、社会に対する公正な眼と自己を尊重する倫理性、さらには世界のさまざまな地域の人々とそれぞれの文化とに対する理解を育成し、世界の調和的な発展に貢献しうる人間を養成する。	<b>経済学部の目的(Webサイト上)</b> 本学部では、経済学の専門的知識や現実経済の背景にあるさまざまな文化や伝達手段を身につけることを通じて、社会に貢献し、その社会への貢献を通じて自分自身をも磨ける人間を育てようとしている。学生の大半が民間企業へ就職するという状況の中で、経済学というツールを使って経済現象を的確に捉え分析し、新聞の経済記事等を自在に読める人材、企業が求めていると考えられる経済学という基盤を持った実践力を有した人材の育成を行っている。本学部の教育目的は「倫理観と判断力を持った実践力のある人材」の育成である。	変更の有無 <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。
	<b>めざす学生像</b> 経済学部がめざすのは、スクールモットーである「マスタリー・フォア・サービス」の精神を理解し、経済学の専門知識を駆使し、広く社会に貢献できる、かつそのような強い意欲をもつ人物の育成である。すなわち、社会への奉仕という高い理想を抱きつつ、グローバルな舞台でも適用しうる知性と感性、さらには卒業後も常に自分自身を磨き続ける主体性や気概を兼ね備えた、真にバランスのとれた人格の形成である。	変更の有無 <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。	
	<b>学位授与方針(ディプロマ・ポリシー;DP)</b> ①関心・意欲 ・世界の様々な地域の人々や文化への共感する力を持っている。 ・他者と協力し、社会に貢献しようという意欲を持っている。 ②知識・理解 ・経済学の基本的な概念と理論的・歴史的な経済学的思考力を身につけている。 ・日本や世界の経済事情、歴史、言語や文化、そして宗教に関する基礎的な知識を身につけている。 ③技能・表現 ・基本的な情報処理技術に基づいた、経済データ分析能力を備えている。 ・日本語および1つ以上の外国語習得に基づいた、コミュニケーション能力を備えている。 ④判断・問題解決 ・経済学的思考力に基づいた、現実の社会や経済の事象についての判断能力を備えている。 ・現実の社会や経済のなかで課題を発見し、解決する能力を備えている。	変更の有無 <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。	

# 2016年度 自己点検・評価【経済学部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート  
～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

責任者	経済学部長	作成部局	経済学部
-----	-------	------	------

A-1.「理念」、A-2.「目的」「めざす学生像」「学位授与方針」に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	「経済学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」は、「A-1. 経済学部の理念」に沿い、めざす方向性を適切に表現しているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	「経済学部の目的(Web サイト上)」は、A-2「経済学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」に沿った内容であり、社会に対して分かりやすい表現になっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	「めざす学生像」と「学位授与方針」は、A-2「経済学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」、「経済学部の目的(Web サイト上)」と整合性が取れ、目的の実現に向けて相応しい内容となっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学位授与方針は、学位授与にあたり、学位授与基準および当該学位に相応しい学習成果を明確に示しているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認5】	学位授与方針に基づく学習成果を測定するための評価指標を開発し、適切に成果を測るよう努めているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認6】	目的、「めざす学生像」、「学位授与方針」は周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(承認・決裁)	学部教授会(議長:学部長)
	検証手続き	学部長室委員会での審議を経て、学部教授会において決裁・承認する。
	決定・判断時期	毎年11月
	検証エビデンス	教授会・議事録
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った( 2016年 7月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。(予定: 年 月)	
検証プロセス	検証方法	学部自己評価委員会は9月末日までに成果指標により検証し、学部長室委員会に報告する。学部長室委員会は報告を受けて内容を審議する。
	検証結果	<input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="display: inline-block; vertical-align: middle; margin-left: 10px;"> <input checked="" type="checkbox"/>既に見直した(→A票の内容を書き換えた。)  <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。(見直し計画: )  <input type="checkbox"/>その他                 </div>
	判断根拠	卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)、自己点検・評価設定・確認シート
周知・公表方法	<input checked="" type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他 ( )	

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート  
 ～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

責任者	経済学部長	作成部局	経済学部
-----	-------	------	------

A-3

教育研究目標		変更の有無
目標1	(タイトル) 学部での専門的な学びを実践し、卒業後に社会で活躍していくために必要な基礎学力を修得できる教育を提供する。	□有り ☑無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。
	(狙い・内容) 多くの学生は本学部卒業後は社会へと出て行くので、社会、とくにグローバル化が進む社会で役立つような学びを本学部で提供する。そこで、教務上の1つめの目標として、基礎学力を修得する教育に力を入れる。ここでの基礎学力とは、経済学・数学・統計学などの分析ツールを利用して現実の経済を分析する能力と、英語などの外国語を使って経済やビジネスについて議論できる能力である。これらの能力のうち、今回は外国語に関する教育の充実を目標として掲げる。すなわち、外国語資格・検定試験の成績向上を目指し、また留学生とともに英語を使って経済と経済学を学ぶ科目の提供を増やす。	
目標2	(タイトル) 基礎学力に基づいて論理的に思考し、その内容を他者に伝える能力を備えてグローバルに活躍できる人材を育成する。	□有り ☑無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。
	(狙い・内容) 多くの学生は本学部卒業後は社会へと出て行くので、社会、とくにグローバル化が進む社会で役立つような学びを本学部で提供する。そこで、教務上の2つめの目標として、基礎学力を使って論理的に思考して他者に伝える能力を涵養するために、論理的に文章を書く能力を育てる横断的なカリキュラム(Writing across curriculum)を提供する。すなわち、授業の中で論理的に考えて文章を書くことを指導をする科目を既存科目の中から指定していき、担当教員相互のFDを通して、このような能力を育む教育を提供する。	
目標3	(タイトル) すべての学生が活躍できる学部を目指す。	□有り ☑無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。
	(狙い・内容) 各学生が将来を見据えて学部4年間の目標を立て、その目標に向かって少しでも前進し、その前進がよく自覚できるよう、学生の個性に応じた支援をする。そのために、入試形態別に成績・課外活動・就職のデータを利用して、それぞれの特徴から改善点を探り、教育を中心に支援を提供する。また、そのために学習ポートフォリオを学生が活用する枠組みを構築する。	
目標4	(タイトル) 対外的な研究成果の発信に努め、教育へのフィードバックを含め、研究成果を社会に還元し寄与していく学部を目指す。	□有り ☑無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。
	(狙い・内容) 教員による研究活動を活性化し、社会へその成果を還元していくために、学術誌、ディスカッションペーパー、セミナー、コンファレンスなどにおける研究発信に加え、学部ホームページなどICTを利用した情報発信を充実させていく。特にグローバル化が進むなかで、英語での情報発信を増やしていく。	
目標5	(タイトル) データに基づき、各種の高大接続方法を検討・改善する。	□有り ☑無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。
	(狙い・内容) 本学部の教育でその能力を伸ばせるような学生が入学できるように、入試形態別のデータに基づいて入試や他の高大接続制度を改善していく。	

# 2016年度 自己点検・評価【経済学部】

A票

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート  
～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

責任者	経済学部長	作成部局	経済学部
-----	-------	------	------

A-3.「教育研究目標」に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	「教育研究目標」は、A-2「目的」、「めざす学生像」の実現に向けて、相応しい内容であるか、適切な表現であるか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	「教育研究目標」は、教育の質向上に向けた意欲的な内容になっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	「教育研究目標」は、周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(承認・決裁)	学部教授会(議長:学部長)
	検証手続き	学部長室委員会での審議を経て、学部教授会において決裁・承認する。
	決定・判断時期	毎年11月
	検証エビデンス	教授会・議事録
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。		<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った( 2016 年 7 月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)
検証プロセス	検証方法	学部自己評価委員会は9月末日までに成果指標により検証し、学部長室委員会に報告する。学部長室委員会は報告を受けて内容を審議する。
	検証結果	<input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="display: flex; align-items: center; margin-left: 20px;"> <div style="margin-right: 10px;"> <input checked="" type="checkbox"/>既に見直した(→A票の内容を書き換えた。)  <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。(見直し計画: )  <input type="checkbox"/>その他 ( )                 </div> <div style="margin-right: 10px;"> </div> </div>
	判断根拠	教育研究目標(経済学部ホームページ)、自己点検評価設定・確認シート
周知・公表方法	<input checked="" type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他 ( )	

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート  
 ~検証状況の確認~

提出日:2017 年 2 月 23 日

責任者	経済学部長	作成部局	経済学部
-----	-------	------	------

A-4

教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー;CP)	変更の有無
<p>①関心・意欲                      高等学校までの中等教育から大学からの高等教育へ繋ぐ導入教育科目、健康な心身を育み世界の様々な地域の人々や文化を学びそれへの共感を醸成するための言語教育科目を配置する。また、本学のキリスト教主義の礎となるキリスト教科目、学際・連携科目、および、経済学以外の様々な学問分野の基礎を学ぶ他学部開設専門教育科目から構成される総合教育科目を配置する。</p> <p>②知識・理解                      日本や世界の経済事情、歴史、言語や文化、そして宗教に関する基本的な知識を身につけるための言語教育科目。また、本学のキリスト教主義の礎となるキリスト教科目、学際・連携科目、他学部開設専門教育科目を配置する。これらの幅広い基礎学力の上に、経済学の基本的な概念や経済・社会の歴史的視点を理解し、経済学的思考力を身につけるための「専門基礎科目」を配置する。これは、基礎、標準、応用へと経済学諸分野を発展的に学び、深めるために体系的に配置された基礎科目、入門科目、分析ツール科目からなる。この「専門基礎科目」の履修の上に、多くの学生が履修すべきコース標準科目、さらに発展的な学習を目指す、コース応用科目からなる「専門科目」を配置する。さらに、コースでの学習を相互に関連付けるコース関連科目を配置し、学生に体系的履修を促すための履修モデルを示す。</p> <p>③技能・表現                      情報処理を基礎とする経済統計やデータ分析能力を育む情報科学科目、分析ツール科目を配置し、また、母国語・外国語によるコミュニケーション能力を育む言語教育科目、中等教育から大学からの高等教育へ繋ぐ導入教育科目、少人数による研究演習科目も含む、コース関連科目を配置する。さらに、論理的に文章を書く能力を育てる横断的なカリキュラム(Writing across curriculum)を提供する。</p> <p>④判断・問題解決                      現代の複雑な経済・社会現象を理解し、直面する問題を発見しその解決のための判断能力を育み、学生が自らの生き方や仕事について考える機会をつくるライフデザイン科目を置く。また、コース標準科目、コース応用科目などの「専門科目」、さらには、これらの科目で得た経済学の専門的知識・理解を相互に関連付け考える力を涵養するための少人数による研究演習科目などを配置する。</p>	<p><input type="checkbox"/>有り  <input checked="" type="checkbox"/>無し                      ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</p>

**A-4. 教育課程の編成・実施方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認** チェック欄

【確認1】	教育課程の編成・実施方針は、A-2「めざす学生像」、「学位授与方針」、A-5「学生の受け入れ方針」と整合性が取れているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	教育課程の編成・実施方針は、A-3「教育研究目標」の達成に向けて相応しい内容となっているか、表現は適切か。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	教育課程の編成・実施方針は、教育課程の編成や、教育内容、教育方法等に関する考え方を明確に示しているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学位授与方針の内容を実現するために、教育課程の編成・実施方針は適切な内容となっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認5】	教育課程の編成・実施方針は周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(承認・決裁)	学部教授会(議長:学部長)
	検証手続き	学部長室委員会での審議を経て、学部教授会において決裁・承認する。
	決定・判断時期	毎年11月
	検証エビデンス	教授会・議事録
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った( 2016 年 7 月)	<input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。(予定: 年 月)
検証プロセス	検証方法	学部自己評価委員会は 9 月末日までに成果指標により検証し、学部長室委員会に報告する。学部長室委員会は報告を受けて内容を審議する。
	検証結果	<input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="display: inline-block; vertical-align: middle; margin-left: 20px;"> <input checked="" type="checkbox"/>既に見直した(→A票の内容を書き換えた。)  <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。(見直し計画: )  <input type="checkbox"/>その他 ( )                     </div>
	判断根拠	学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)、自己点検・評価設定・確認シート
周知・公表方法	<input checked="" type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他 ( )	

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート  
～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

責任者	経済学部長	作成部局	経済学部
-----	-------	------	------

A-5

学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー; AP)	変更の有無
<p>【関西学院大学(学士課程)】</p> <p>I. 関西学院大学アドミッション・ポリシー</p> <p>世界を視野におさめ、他者(ひと)への思いやりと社会変革への気概を持ち、高い識見と倫理観を備えて自己を確立し、自らの大きな志を持って行動力を発揮する“Mastery for Service”を体現する世界市民を育成することが関西学院のミッションです。</p> <p>関西学院大学は、このミッションに共感し、大学での学びや諸活動の中で、自分への挑戦を続ける意欲にあふれ、さまざまな適性を有する多様な背景をもった学生・生徒を世界のあらゆる地域から受け入れます。</p> <p>そのために、これまで培われた確かな基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた資質、能力、学ぶ意欲や人間性などを、多様な入試制度により多面的に評価することを基本的な方針としています。</p> <p>II. 各学部のアドミッション・ポリシー</p> <p>(略)</p> <p>経済学部アドミッション・ポリシー</p> <p>わが国を含め世界の政治・経済情勢は大きな変化の時代を迎えています。その一つに、貧困や環境の問題などが挙げられますが、その根本には経済問題があるのはいままでありません。今の時代に大学で経済学を学ぶ意義はきわめて大きいといえます。同時に、社会や世界の多様な文化や考え方の違いを認識することが大切だと言えます。まさに、激動の世界において活躍できる「世界市民」に求められる資質は、経済学の専門知識だけでなく幅広い多様な知識としっかりとした価値観を持つことです。本学経済学部では、このような考えから、外国語の能力、社会や世界に対する知識、論理的な思考能力や判断能力が、これからのビジネスの世界や公的機関で働くために必要不可欠な基礎学力であると考えます。世界的な視点から社会のさまざまな出来事に関心を持ち、自分で考える人材を育てていきたいと考えております。その意味で、経済・社会の問題に関心があり、主体的に考えていく能力を身につけたいと思っている学生を求めます。</p> <p>以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。</p> <p>(略)</p> <p>III. 入学試験毎のアドミッション・ポリシー</p> <p>1. 一般選抜入学試験</p> <p>一般選抜入学試験は、各学部での教育に必要な「総合的な学力を持つ受験生を選抜する」ものです。</p> <p>一般入学試験では各学部の教育理念・目標に基づき試験教科・科目、配点を設定し、筆記試験により関西学院大学で学ぶために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定するための問題を独自に作成しています。</p> <p>全学日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語」「国語」を必須とし、「日本史」「世界史」「地理」「数学(記述式)」を選択科目とし筆記試験を実施します。全学日程の国際学部については、高い英語能力を有する生徒を評価するため、「英語」に特化した「英語」「英語論述型」による入学試験も実施しています。</p> <p>学部個別日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語」「国語」に記述式を探り入れ必須とし、「日本史」「世界史」「数学(記述式)」を選択科目とし筆記試験を実施します。なお文学部では「日本史」「世界史」「数学(記述式)」に加えて「地理」を選択科目に加えています。人間福祉学部については学部個別日程において「英語」「国語」の2科目による筆記試験を行っています。</p> <p>理系入学試験においては全学日程・学部個別日程ともに、本学で学ぶために必要な「英語」「数学(記述式)」を必須とし、理科(記述式)「物理」「化学」「生物」のいずれかを選択する筆記試験を実施しています。</p> <p>一般入学試験関学独自方式日程は、英語・数学科型、関学英語併用型、関学数学併用型の3方式を実施しています。英語・数学科型は、関西学院大学独自の「英語」と「数学(記述式)」による筆記試験を実施し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定しています。関学英語併用型・関学数学併用型は、関西学院大学独自の「英語」または「数学」に、大学入試センター試験の教科・科目の得点を加味し、各学部で学ぶための学力と総合的な基礎学力を有する生徒を選抜するために実施しています。</p> <p>大学入試センター試験を利用する入学試験は、「一般入試とは異なるタイプを受験生を受け入れるための入試制度」と位置づけています。大学入試センター試験で実施している教科・科目の筆記試験をもとに、本学で学ぶために必要な総合的な基礎学力を「知識・技能」を中心に判定を行い、大学入試センター試験の得点のみで合否判定を行います。1月出願においては、文系学部が「英語」「国語」を必須として、「数学」「理科」「地理歴史」「公民」から高得点を採用する方式を3科目型、5科目型の方式で実施しています。理工学部は「英語」「数学」を必須として各学科の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え科目数を設定し、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。3月出願においては、文系学部が「英語」を必須とし、「国語」「数学」「理科」「地理歴史」「公民」から高得点科目を採用する方式を実施しています。理系学部「英語」「数学」を必須として各学科の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。</p> <p>また、大学入試センター試験を利用する入学試験(1月出願 英語検定試験活用型)は、「読む」「書く」「聞く」「話す」の英語の4技能を身に付けた生徒を選抜するために、提出された書類のうち英語検定試験のスコアを出願資格として高く評価し、大学入試センター試験の教科・科目の得点を活用して実施する入学試験であり、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を得点として評価し、検定試験に取り組んだ「主体性」を高く評価します。</p> <p>2. グローバル入学試験</p> <p>グローバル入学試験は、入学後、本学のスーパーグローバル大学創成事業における国際ナショナル・プログラムに積極的に取り組むことを希望する生徒や、将来、国際的な活躍を目指す生徒を対象に5つのカテゴリーで実施する入学試験です。</p> <p>国際貢献活動を志す者のための入学試験</p> <p>国際貢献活動を志す入学試験は、関西学院大学が先駆として実施している学生の国際社会貢献活動プログラムに参加することを志す者で、秀でた英語コミュニケーション能力を有し、国際的課題に関心を持ち興味を持ち課題解決のための提案を行い、実践しようとする意欲を持つ者を対象とした入学試験です。英語検定試験においてCEFR B2以上を有する生徒、課題研究や模擬国連等に取り組み知識・技能、思考力・判断力・表現力を有し主体性・多様性・協働性を高めた課題解決能力を有する生徒を対象に出願資格を設定し評価を行っています。一次審査においてはこれらの実績や成果と、提出された志望理由書等の書類と合わせた書類審査と口頭試問・適性面接審査により評価を行います。口頭試問では英語によるプレゼンテーションと面接により、国際的な知識や英語コミュニケーション能力を評価します。適性面接審査においては、発展途上国でのプログラムに参加するために必要なチャレンジ精神、価値観や粘り強さを面接を通じて評価しています。二次審査では志望する学部の面接により学ぶ意欲や人間性などを評価し選抜を行います。</p>	<p>☑有り ☐無し</p> <p>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</p>

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート  
～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

責任者	経済学部長	作成部局	経済学部
-----	-------	------	------

#### 英語能力・国際交流経験を有する者を対象とした入学試験

英語能力、国際経験を有する者を対象とした入学試験は、関西学院大学のインターナショナル・プログラム(国際教育プログラム)において国際社会で活躍する能力を身に付けることを志し、秀でた英語コミュニケーション能力を有する者、もしくは国際交流体験による異文化社会における経験を有する者で、国際的課題に関し興味をもち課題解決のための提案に意欲を有する者を対象とした入学試験です。出願資格として、英語検定試験において(CEFR B1程度以上)を有する生徒、海外における留学経験を有する生徒、模擬国連等に取り組み問題解決能力を育んだ生徒、英語弁論大会、英語エッセイコンテスト等において入賞した経験を持つ英語コミュニケーション能力を有する生徒を対象に設定し、調査書など提出された書類とあわせて、「主体性」を中心とした書類審査を行っています。また、英語を題材とした論述筆記試験、日本語小論文試験を実施し「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価し、書類審査の結果と合わせた総合評価による一次審査を行います。二次審査では志望する学部の面接により学が意欲や人間性などを評価し選抜を行います。

#### インターナショナル・バカロレア入学試験

インターナショナル・バカロレア入学試験は、関西学院大学のインターナショナル・プログラム(国際教育プログラム)において、国際社会で活躍する能力を身につけることを志す者で、国際的に認められた大学入学資格であるインターナショナル・バカロレアDP(ディプロマ・プログラム)の課程を修了後、統一試験に合格し、インターナショナル・バカロレア資格を有する者を受け入れるための入学試験です。出願時においてフルディプロマを取得済みの者でスコアが32ポイント以上の者、もしくは取得見込でIB PREDICTED SCOREが出願時に32ポイント以上であるものは英語論述審査が免除となります。また日本の一校において上記のスコアを有する者は日本語小論文が免除となります。これに満たない者については、英語を題材とした論述試験・日本語小論文試験を実施し「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価する一次審査を行います。二次審査においては学部の面接により学が意欲や人間性などを評価し選抜を行います。

#### 3. 推薦入学

推薦入学は高等学校長の責任ある推薦により本学で学ぶために必要な学力を有する生徒を受け入れるものです。審査においては調査書、推薦書、志望理由書等の提出書類による書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

#### 院内推薦入学

##### 1) 関西学院高等部

関西学院高等部推薦入学は関西学院の一貫教育の大きな柱として位置づけられています。高等部でキリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、他の入学者に対しても良い影響を与え関西学院の学風を担うことを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

##### 2) 関西学院千里国際高等部

関西学院千里国際高等部推薦入学は、千里国際高等部の特色である国際教育と、キリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

#### 継続校推薦入学

啓明学院継続校推薦入学は、キリスト教主義教育により学んだ啓明学院高等部の生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

#### 提携校推薦入学

関西学院大学提携校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、各校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

#### 協定校推薦入学

##### 1) キリスト教学校枠

関西学院大学協定校推薦入学は、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

##### 2) グローバル枠

関西学院大学協定校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。21世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

##### 3) グローバル+キリスト教校枠

関西学院大学協定校推薦入学は、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるためだけでなく、21世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒をも受け入れるために実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート  
～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

責任者	経済学部長	作成部局	経済学部
-----	-------	------	------

#### 指定校推薦入学

指定校推薦入学は一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する生徒を高等学校長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接によって各学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

(略)

#### 経済学部

関西学院大学経済学部において勉学することに強い意欲をもち、成績優秀で個性ゆたかな活力ある生徒を推薦入学させることによって、学生の多様化をはかり、学部諸活動の一層の活性化を推進して、本学建学の精神に基づく有能な人材を育成することを目的とします。審査では志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

(略)

#### 4. 公募制推薦入学試験

##### 1) スーパーグローバルハイスクール・教育連携校対象公募推薦入学試験

関西学院は、キリスト教主義に基づく「学びと探究の共同体」として、ここに集うすべての者が生涯をかけて取り組む人生の目標を見出せるよう導き、思いやりと高潔さをもって社会を変革することにより、スクールモットー“Mastery for Service”を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育むことを使命としています。

2014年度よりスタートした文部科学省スーパーグローバルハイスクール事業は、急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付けることを重視し、課題研究と高大連携を二本の柱として教育プログラムの開発を目指しています。

このスーパーグローバルハイスクールや本学が教育連携を行う高等学校において、課題研究を通じて能力を高めた生徒を、多面的・総合的に評価を行い、積極的に受け入れ、本学が採択されたスーパーグローバル大学事業への接続を促進するための公募推薦入学試験を実施します。

一次審査においては書類審査を行います。さらに二次審査において学部毎に面接・集団討論・プレゼンテーションを行います。課題研究を通じて培った「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価を行います。高等学校までの学びを通じて培ったありのままの力を評価しますので、入学試験のために特段の準備を必要とするものではありません。

(略)

#### 5. AO入学試験

関西学院大学のスクールモットーは“Mastery for Service(奉仕のための練達)”。これは、第4代院長 C.J.L. ベーツ宣教師が学生たちに与えた言葉で、「奉仕のための練達」と訳されています。わかりやすく言えば、「人々に奉仕できる、社会に役立つ知識と人間性を、自らの主体性を持って磨き上げよ」ということです。

本学が目指す全人教育は、専門知識の修得だけでなく、その専門知識を社会の善として活用し人類の幸福に資する知識とするための教育です。そのためには、知育教育だけでなく、スポーツや芸術などの情操教育や社会貢献活動などが大きな役割を果たします。関西学院大学では、その教育目的を具現化できる、意欲に満ちた受験生を求めています。

AO入学試験は、従来の教科科目の筆記試験だけでは測ることができない多様な能力や、様々な経験や活動を通じて身につけた豊かな人間性、あるいは将来性・可能性などを、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」の観点から多面的かつ積極的に評価する制度です。本学のAO入学試験は、各学部が独自のアドミッション・ポリシーを掲げてそれぞれの審査方法で選考する方式であり、大学教育を受けるために必要な基礎学力があり、各学部が定める受験資格を満たしていれば、自分の意志で出願できる自己推薦型です。

(略)

#### 経済学部

関西学院大学経済学部は、経済学の専門的知識や現実経済の背景にあるさまざまな文化や伝達手段を身につけることを通じて、社会に貢献し、その社会への貢献を通じて自分自身をも磨ける人間を育てることを目的としています。

大学教育の場を活気と創造性に満ちたものにするためには、個性ゆたかで活力ある学生を受け入れることで、学生たちの間に生き生きとした状況を作り出し、さらには大学教育そのものを活性化すると考えています。経済学部が求めるのは、学問を通じて発揮される活力です。このような活力は、単に勉学においてだけでなく、生活全般にわたる人間としての働きやなかで培われるものです。そこで、高校時代の勉学のほか、学校内外での様々な活動に積極的に取り組んだ経験を通じて培われた能力や人間性、社会人としての経験などを出願資格とし、AO入試を実施します。

審査は書類審査・筆記審査・面接審査を通じて、学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。書類審査においては提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から「主体性・多様性・協働性」などを中心に評価を行います。筆記審査においては日本語資料による読解・論述審査、英語資料による読解・論述審査を行い「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心とした学力を評価します。また、二次審査の面接審査では二つの方式を設けています。自己推薦型ではプレゼンテーションにより表現力・主体性などを評価しながら、上述の本学部で学ぶ能力や人間性などを中心に評価を行います。数学能力重視型では、数学に関する口頭試問を行い数理的能力について評価しながら、上述の本学部で学ぶ能力や人間性などを中心に評価を行います。

(略)

#### 6. 帰国生徒入学試験

国際化時代に伴い、海外において勤務する日本人の数は多数にのぼっています。また、外国文化摂取のために長期留学する者も増加しています。この現象に伴う帰国生徒の教育問題は高い関心事となっています。しかし、海外での教育条件や生活環境などの違いによって大学に進学できる能力を有しながらも、日本の大学入試制度に対応できないために、正当に評価されていないという問題が指摘されてきました。これに対して、本学では、全国の大学に先駆けて1964年に帰国生徒の受け入れについての規程を制定し、その先進性で評価されています。

この入学試験は、帰国生徒の海外での経験を評価して受け入れるためであると同時に、多様な学生を受け入れることによってキャンパスの活性化を図る教育的効果も期待し、いわゆる「多角的入試」の一環として行っています。諸外国で勉学してきた帰国生徒が海外での貴重な経験と知識を生かし、学内での相互交流を通して学識や人間性をより一層高め、将来の日本および世界を支えていく真の国際人として成長していくことを期待しています。

筆記試験を実施する学部については、英語、日本語に関する知識・技能、思考力・判断力・表現力の評価を行い、面接試験において海外での体験において培った主体性・多様性・協働性や、本学で学ぶ意欲について評価を行います。



<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート  
 ～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

責任者	経済学部長	作成部局	経済学部
-----	-------	------	------

<p>7. 国連難民高等弁務官駐日事務所との協定による難民を対象とする推薦入学試験</p> <p>「難民を対象とする推薦入学制度」は、関西学院大学と国連難民高等弁務官(UHCHR)駐日事務所との協定に基づき実施する入学制度です。これは本学の建学の精神に基づき「人類の幸福と平和に資する世界市民の育成」を現代に即したかたちで実現するためのものです。</p> <p>日本で生活する難民の方々は、厳しい環境下におかれています。特に教育面では、本人や家族の経済的事情や、母国での出身校の卒業証明が得られないなどの理由で、高等教育を受ける機会を失っている場合が少なくありません。それが就労条件の悪化、さらには、経済的事情の悪化につながっています。</p> <p>こうした状況を少しでも改善することを目的とするこの推薦入学制度で入学した生徒が、高い教養と専門性を身につけ、将来、日本、母国あるいは国際社会において平和の構築や社会の発展を支える人材へと成長することが期待されています。また関西学院大学で共に学ぶ他の学生にとっても、迫害や戦争といった国際社会が抱える問題を身近に捉えたとともに、日本国内の国際化を意識する機会となります。</p> <p>国連難民高等弁務官(UHCHR)駐日事務所との推薦に基づき、面接を行い本学で学ぶ意欲を中心にしながら「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」について評価を行います。</p> <p>8. スポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験</p> <p>関西学院大学スポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験</p> <p>この選抜入学試験制度は、スポーツ活動において優れた能力と競技実績を有し、入学後は学業と課外活動を両立させる強い意欲をもつ者を積極的に受け入れ、本学における教育の活性化と課外活動の一層の振興に寄与することを目指すものです。提出された書類に基づきスポーツ実績を評価するとともに、本学で学ぶにあたっての基礎学力、知識、表現力、論理的思考力を筆記試験により評価を行います。一次合格者に対する二次審査は面接審査を実施し志願する学部で学ぶ意欲を中心に評価を行います。</p> <p>(略)</p>	
--	--

A-5. 学生の受け入れ方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	学生の受け入れ方針は、A-2「学位授与方針」、A-4「教育課程の編成・実施方針」と整合性が取れているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	学生の受け入れ方針は、理念・目的、教育研究目標を踏まえ、入学時に求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにしているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	学生の受け入れ方針と、実際の学生募集方法、入学者選抜の実施方法は整合性が取れているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学生の受け入れ方針は、周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(承認・決裁)	入試委員会(委員長:学長)
	検証手続き	学部長室委員会での審議を経て、入試委員会で承認する。
	決定・判断時期	随時
	検証エビデンス	入試委員会・議事録
前回の検票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った( 2016年10月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。(予定: 年 月)	
検証プロセス	検証方法	学部自己評価委員会は9月末日までに成果指標により検証し、学部長室委員会に報告する。学部長室委員会は報告を受けて内容を審議する。
	検証結果	<input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="display: inline-block; vertical-align: middle; margin-left: 10px;"> </div> <input checked="" type="checkbox"/> 既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。 (見直し計画: ) <input type="checkbox"/> その他 ( )
	判断根拠	「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドライン
周知・公表方法	<input checked="" type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input checked="" type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他 ( )	

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート  
 ~検証状況の確認~

提出日:2017年2月23日

責任者	経済学部長	作成部局	経済学部
-----	-------	------	------

A-6

学生支援に関する方針		変更の有無
<p>学生の主体的努力による多様な「学び」のあり方を尊重しつつも、すべての学生に最低限の基礎的学問知識の修得を確実に保証できるような、また学生一人ひとりが将来の職業生活に向けて計画的かつ充実した学生生活を送ることができるような、各種(教育面・生活面・就職面)の支援体制の構築・改善に努める。</p>		<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>
<p>修学支援</p>	<p><b>学びの組織的な支援</b>                      本学部では、4年間の学びの基礎となる最重要科目と位置付けている「経済と経済学の基礎A・B」に対して補習クラスを開講。大学院生が講師で、学部上級生がそのアシスタントに就き、それぞれの授業に即した補足説明や関連した練習問題を課すことで、基礎知識の定着を図っている。</p> <p><b>初年次教育</b>                      1年次必修科目の「基礎演習」では、少人数クラスで輪読や討論、口頭発表、レポート作成などの方法を少人数制で学び、これらの学びを通して、問題発見力や理論的思考、豊かな表現力、建設的な批判力、問題解決力、プレゼンテーション力などを養っていくようにしている。</p> <p><b>チューター・TA・LA の活用</b>                      本学部では、1年生の必修科目である「経済と経済学の基礎A・Bのための補習クラス」において講師としてチューター(大学院生)、アシスタントとしてLA(学部上級生)を配置している。また「基礎演習」や「経済情報処理入門」においてもLAを採用し、初年次における基礎教育の知識定着を図っている。また、大学院生(TA)が専門科目などで発生した疑問点などに答える相談コーナーを常時開設している</p> <p><b>アカデミック・アドバイザー制度の実施</b>                      単位修得が一定単位数に満たない学生を中心に面談を実施し修学アドバイスをを行うアカデミック・アドバイザー制度を導入している。</p>	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>
<p>生活支援</p>	<p><b>学費負担の軽減</b>                      家計支持者の死亡又は火災・災害による家計急変のため、緊急に支援の必要が生じた場合に一律5万円を支給する奨学金制度を設けている。</p>	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>
<p>進路支援</p>	<p>大学での学び方を一人ひとりがしっかりと意識でき、人生設計の目的を考えられるキャリア教育に関する科目(ライフデザイン科目)を2012年度入学生より、必修として導入。2014年度春学期からは、新2年生向けの授業「キャリアワークショップ」を開講し、外部講師(企業担当者など)により実施。企業で実際に行われている新人研修やインターンシップ、実際の業務や提案事項を学内版にアレンジして実施、社会にでること、社会で働くことの厳しさを感じ、学生時代に何をすべきなのかの気づきを促します。将来の自分の姿を想像しビジョンを描くことの重要性、その実現のためになすべきことなどを学び、自分のキャリアに関する意識を高めることを目的としている。</p>	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>

# 2016年度 自己点検・評価【経済学部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート  
～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

責任者	経済学部長	作成部局	経済学部
-----	-------	------	------

A-6. 学生支援に関する方針について、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	学生支援の方針(修学支援、生活支援、進路支援)は、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえた内容になっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	方針に沿って、修学支援、生活支援、進路支援のための仕組みや体制を整備し、適切に運用しているか。  (下記のことが明らかであることに留意する。) <修学支援> ・留年者及び休・退学者の状況把握と対処 ・学生の能力に応じた補習・補充教育の実施 ・障がい学生に対する修学支援の実施 ・奨学金等の経済的支援の実施 <生活支援> ・学生相談室等、学生の相談に応じる体制の整備、学生への案内 ・各種ハラスメント防止に向けた取り組み	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	学生の進路支援は、入学者の傾向等の特性を踏まえながら、進路選択に関わる指導・ガイダンスの実施の点から取り組んでいるか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援)は、教職員で共有されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(承認・決裁)	学部教授会(議長:学部長)
	検証手続き	学部長室委員会での審議を経て、学部教授会において決裁・承認する。
	決定・判断時期	毎年11月
	検証エビデンス	教授会・議事録
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った( 2016 年 7 月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。(予定: 年 月)	
検証プロセス	検証方法	学部自己評価委員会は9月末日までに成果指標により検証し、学部長室委員会に報告する。学部長室委員会は報告を受けて内容を審議する。
	検証結果	<input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="display: inline-block; vertical-align: middle; margin-left: 10px;">                     → <input checked="" type="checkbox"/>既に見直した(→A票の内容を書き換えた。)                      → <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。(見直し計画: )                      → <input type="checkbox"/>その他 ( )                 </div>
	判断根拠	各種委員会記録、学部長室委員会審議記録、自己点検・評価設定確認シート
周知・公表方法	<input checked="" type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他 ( )	

# 2016年度 自己点検・評価【経済学部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート  
 ～検証状況の確認～

提出日: 2017年2月23日

責任者	経済学部長	作成部局	経済学部
-----	-------	------	------

A-7

教員像	変更の有無
一方では、学界に貢献するために常に自己を研鑽し続ける勤勉な研究者でなければならない。他方では、学生たちの成長を自らの喜びとするような熱心な教育者でなければならない。経済学部教員は、近年、一般社会ならびに学生によって、それらの両立をますます要求されるようになっていく。	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>

無しの場合どのように設定するか？	責任主体・組織	
	設定方法	
	設定見込み時期	

教員組織の編制方針	変更の有無
教員は、さまざまな提供科目に応じて、分野別のグループに分かれて配置されている。しかし、時代の変化とともにカリキュラム体系も変えていく必要があり、それに応じて教員の編成も変えていく必要がある。そこで、学部全体の見地から教員の構成を常に見直すことができるようにしている。	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>

**A-7. 教員像、教員組織の編制方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認** チェック欄

【確認1】	教員像は、教員に求める能力・資質、教育に対する姿勢等を明確にしているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	教員組織の編制方針は、組織的な教育を実施する上において、必要な役割分担や規模(人数)、教員の専門分野やスキル構成、責任体制、を明確にしているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	教員像・教員組織の編制方針は教職員で共有されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(承認・決裁)	学部教授会(議長:学部長)
	検証手続き	学部長室委員会での審議を経て、学部教授会において決裁・承認する。
	決定・判断時期	毎年11月
	検証エビデンス	教授会・議事録

前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2016年7月)	<input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。(予定: 年 月)
検証プロセス	検証方法 学部自己評価委員会は9月末日までに成果指標により検証し、学部長室委員会に報告する。学部長室委員会は報告を受けて内容を審議する。	検証結果 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。
	判断根拠 経済学部運用内規、自己点検・評価設定確認シート	<input checked="" type="checkbox"/> 既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画: ) <input type="checkbox"/> その他 ( )

周知・公表方法	<input checked="" type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他 ( )
---------	---

# 2016年度 自己点検・評価【経済学部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート  
～検証状況の確認～

責任者	経済学部長	作成部局	経済学部
-----	-------	------	------

## ※評価専門委員会・第三者評価結果 2017年1月27日公示

- ・ 学位授与方針、教育課程編成の方針は、求められていることが記述されており、評価できます。
- ・ 学生の受け入れ方針は、求める学生の姿は記述されていますが、入学するまでに修得すべき知識などの内容・水準などについて明らかにされているとは言いにくいので、これらについても記述することが期待されます。(A)
- ・ 入学者受入れの方針において学力の3要素が触れられていますが、具体的にどういった学修成果が求められているのかわかりづらいようです。第3期認証評価を見据えて、受験生にわかりやすい表現が期待されます。(B)
- ・ DP・CPIについて、先般の中央教育審議会から出されたガイドラインに示されたポイント等を参考に、書かれるべき内容が盛り込まれているか再度確認することが望まれます。(D)
- ・ 妥当であると認められます。(E)
- ・ 概ね適切な自己評価がされています。
- ・ A-5の適切性の検証体制に関しては、学部教授会での審議も行われることが望まれます。(G)
- ・ 教員組織の編制方針について、「学部全体の見地から教員の構成を常に見直すことができる」とありますが、「学部全体の見地」からどのような点を確認するのか明確ではないように思えます。明確に記述したほうが良いのではないのでしょうか。(H)

# 2016年度 自己点検・評価【経済学部】

A票変更点  
記述シート

## <A票変更点記述シート>

提出日:2017年2月23日

責任者	経済学部長	作成部局	経済学部
-----	-------	------	------

### 【A票変更点記入欄】

項目名	A-5 学生の受け入れ方針(アドミッション)ポリシー; AP
変更内容とその理由	<p>&lt;変更内容&gt; 別紙参照</p> <p>&lt;変更理由&gt; ・2015年度に設定した際に記載漏れのあった入試形態のアドミッション・ポリシーを追記したため ・文体の統一のため</p>
項目名	A-6 学生支援に関する方針
変更内容とその理由	<p>&lt;変更内容&gt; チューター・TA・LAの活用 本学部では、1年生の必修科目である「経済と経済学の基礎A・Bのための補習クラス」において講師としてチューター(大学院生)、アシスタントとしてLA(学部上級生)を配置している。また「基礎演習」や「経済情報処理入門」においてもLAを採用し、初年次における基礎教育の知識定着を図っている。また、大学院生(TA)が専門科目などで発生した疑問点などに答える相談コーナーを常時開設している</p> <p>&lt;変更理由&gt; 修学支援者の呼称に間違いがあったこと、また支援科目の追加のため</p>
項目名	
変更内容とその理由	<p>&lt;変更内容&gt;</p> <p>&lt;変更理由&gt;</p>

### <評価専門委員会・第三者評価結果記入欄>

- ・ 妥当であると認められます。(E)
- ・ いずれの変更内容とその理由についても適切です。(G)